



タイムトラベル

原 由里子

私は、休みのたびに一人カラオケボックスに行つては5〜6時間たつぷり歌つています。

ある日の休みの日、久々に図書館に行つてみました。4階に

ある学習室で、書き物をしていた時ふつと思ひました。「周りに人がいる事っていいな。」はっ！と気づきました。

確かに、カラオケに行つて歌っているの外には出掛けているけれど、一人5〜6時間歌つていては、外出する引きこもりだと。

「それでは駄目だ!」と思ひ、考えました。「私は大垣生まれの大垣育ち。だけど、大垣の事を全く知らない。それなら、大垣の歴史に触れてみよう。」と思ひ、次の休み、4月24日に行動に移してみました。

どこに行こうかなと、自転車に乗りながら、ノーブランドのまま走らせていました。途中ふつと思ひました。「そういえば、大垣城改装工事が終わつてから一度も行つてないな。」

大垣城の門の前まで行き、自転車をジャマにならない所に停めて、木の門をくぐり、石の階段を登り、大垣城の中に入りました。

受付で入場料百円を払い、大垣城のパンフレットとチケットの半券を買つて中に入りました。

後から考えたら、ぶらりウォークの通行手形を買つて入つた方が良かったのでは?その時はそんな事も思いつきませんでした。大垣城に入るのは、小学生以来なので20年以上ぶりになります。その当時と、改装後を比べるとかなり考えられて工夫が

現在の天守閣が完成したそうです。歴史の上からも重要な役割を果たしていました。

慶長5年(1600年)石田光成ら豊臣方の西軍は、徳川家康を討つため、美濃の国に入り、時の大垣城主、伊藤盛宗は豊臣家の家臣で西軍に属していました。石田光成は、大垣城に入城して西軍の本拠地にしたそうです。

この戦いは、名高川原合戦、最後の国内最大の戦です。「美濃を制す者は天下を制す」と言われるほど、すごい重要拠点だったそうです。改装後、関ヶ原合戦や、町屋のジオラマや関ヶ原合戦を詳しく映像化してあつたり、歴史に関わる場所をビデオクリップにしてボタンを押すと、4分30秒映像が流れるようになっていました。

あと火縄銃が鎖に繋がれていて誰もが触れるようになっていました。大垣城の1番上の階に登ると、展望台になっていきます。東西南北でそれぞれの窓から見える景色の写真が貼つてあり、

てあるなと思ひました。小学生の時に行った大垣城は、槍や刀、兜鬼瓦、お城から出土したもの、お城で使われていた物がガラスケースに展示してあるだけで、また行こうという感じにはなれなかつたです。20年以上ぶりに入つた改装後の大垣城は、結構楽しめま

東側の角にガイドが流れるボタンがあります。そのボタンを押すと4分間、東西南北の景色にまつわる歴史の放送が流れます。

色々工夫がされていて、私は又大垣城にこようかなと思ひました。大垣城に行こうと思つている方は、全部階段で、急なので足腰の健康にはもつてこいす。大垣城を後にして、次は郷土館だと思つて行つたら休館日。4月24日は火曜日。大垣は、図書館、武道館、守屋多々志美術館、輪中館、赤坂の金生山化石館、大垣市歴史民俗資料館の全て火曜日休み。これは、後から知りました。

諦めるしかないの、大垣公園内を歩き、神社でお参りし、お城の周りを通つて、自転車をとり、走らせながら、帰るにもまだ早いしなく。と考へながら、風地蔵から近いけど、まだ中に入つた事のない、奥の細道むすびの地

記念館だ!と行き先が決まりました。大垣城から信号も考へて、約5分くらいで着く所なので、

した。大垣城は、460年程前に築城したそうです。天守閣は、四重四階建て総塗り込め様式で、大変優美な城として名高く、昭和11年に国宝に指定されました。しかし、昭和20年7月29日戦災で焼失してしまいました。再建の気運が高まり、昭和34年

すぐに到着しました。自転車置き場が建物の南側にあり、停めて中に入ります。左奥にトイレがあり、

目の奥に荷物を入れるロッカーがあり、その先の右側に大垣の物産品のお土産コーナーがあります。その前にイスとテーブルがあり、飲食が出来るようになってい

ます。AVシアターや展示室は左手にあり、受付で入場料300円を払います。パンフレットとAVシアターが3Dになっているので、3Dメガネと、5問ほどのクイズの答案用紙兼俳句をかける紙を買えます。

最初にAVシアターに入り、小学生の姉弟と芭蕉くんという水門川の畔に立っている芭蕉像から出て来た妖精が出てきて、芭蕉ゆかりの地を芭蕉の名前の由来になつた葉に乗つて旅をするという映像で、なかなか面白かつたです。

映像を見た後、「奥の細道」を旅路ごとに区切つて、関連する資料と映像で俳聖、人物像や旅に生きた人生を紹介している部屋が続きま

す。松尾芭蕉や、歴史が好きな人は熱中して見れますが、細く細い字で書いてあるので疲れそうなので、じっくり見るのはやめて、資料の中のどこかに答えがあるだろうと、5問のクイズに答えながら進みました。

奥に進むと、先賢館という所があり、「文教の町・大垣」の礎を築いた江戸時代後期から幕末にかけて活躍した5人の先賢の偉業を紹介してありました。

美濃西洋医学の先駆者「絵馬蘭齋」、近代植物学の開拓者「飯沼慾齋」、詩画の才能を発揮した才女「絵馬細香」、勤王の志を導いた漢詩人「梁川星巖」、酒と梅と詩を愛した大垣藩の重鎮「小原鉄心」。

今まで全く知らなかつた人達です。先賢館では、この5人の作品や開発した物が展示してあります。5人の関係性や、人物紹介の映像が流れています。かなり解りやすく、すぐききれいな映像で、最新技術を駆使しているのがわかり

ます。あつ、そうそう。入場する時に、俳句が書ける紙を渡された事を思い出し、一句考へてみました。「朝寒く 昼暑い 夏の手前」結構前なので、たぶんこんな俳句を書いたような違つたような気がします。

よくよく考へてみたら、私の俳句は俳句じゃない。五・七・五はどこへやら。まあ、参加する事

に意義があると、建物を出てから思ひました。受付を出て、クイズと俳句の紙を白い箱に入れました。クイズ全問正解したら、粗品を進呈と答案用紙に書いてあり、「何がもらえるのかな?」と思つていたら、受付の方に「ありがとうございます。」と笑顔で、紫色ベースの紙に「ばしょ君」のキャラクターと奥の細道むすびの地大垣、あぶらとり紙20枚入りと印刷された物を渡されました。

確かに、クイズの答えは展示してある資料の中から探し出して全問正解にしていたので、当然かと思ひ、素直に受け取つて帰りました。

記念館の真ん中に、茅葺き屋根の建物があり、誰かの家くらいに思つていたら、店長が、「茶室でしょ」と言っていたので、「そうか」と思ひました。どうも違つていて、「無何有庄大醒樹」(ムカウソウタイセイシャ)とすごい名前前の付いた大垣藩老、小原鉄心の別荘を復元した建物でした。

今度の休みはどこへ行こうかなと、タイムトラベルの予定を考へながら帰りました。

おわり



社長は今、人生の成長盛りという感じがします。楽しんでるのも伝わってきます。新聞や、朝礼の時の話を聞いてみると、頑張りがみえて、私達も負けじと頑張らな

### ちよつと立ち話

トでも色々ありますが、色々あるから人生は楽しいです。(原)

たような、その場にいたような感じがする。(エステのお客さま)

あなたも店長さんね。原さんのツタンカーメン展を読んで、主人が定年になつて、家族みんなてアフリカに行つて見て来たのよ。なつかしく思い出したわ。(船町の奥さま)

どくだみが20センチになつたのを洗つてお風呂に入れるといい香りです。摘んだ時の香りと変わりますよ。(今町の奥さま)

原先生の行動はすごいなと思います。奥田さんの住んでいた所が、私の家のすぐそばでびつくりしました。自分の息子の時はどうなんだろうと思つて、大橋さんの読みました。(鎌澤)

8月には若い若いおばあちゃん誕生ですか。念願の孫守を楽しんでください。そこで一句。「健やかに育てと祈る青葡萄」柳「崩れます二タリとばあば含ませる」(谷口さん)

くて太陽のような人で、大声で笑う方。店長は、口うるさそうで、厳しそうな方。(そんなんではないです)原先生は、人懐こく話しやすい方だと思いました。(大橋)

新聞いつも毎週ドラマをみるように読んでます。続きはどうなるかと楽しみます。社長と店長さんは、始めから理解し合っているように思つてましたよ。(エステのKさん)

ステのHさん)りおんちゃんでしたか?高山で初めて、試合をするりおんちゃんをみました。強いですね。中学から始めたとは思えない。あ、あいうのを天才というんでしょ。うね。本当にびっくりでした。(エステのKさん)

原先生は、最近ますます、自分磨きが得意になって、こんなにいい娘、いつどこぞの御曹司が、求婚に現れやしないかと、密かに思つてい今日この頃です。今月号、いつものように、あまですさんの原稿が一番でした。

だが、じつは原先生が先に書いてるよ。うなので、原稿用紙10枚は、書いた時点で送つてもらつたうにしました。これだけの大作、いつべんに打ち込むのはきついです(笑)しかも、今月は、新聞のソフトの異常で、もう作れないかとあきらめたほど、復旧が大変でした。

原先生の原稿をFA Xしてもらつたら、なんと5mありました。次回からは郵送でお願ひします。(笑)こうした、みんなの熱い思いの直筆を打ち込む時は、一喜一憂しています。読んでくださる方がいて、コメントが毎回楽しみです。(しらいしみほ)

### 笑い声に包まれた一日

大橋 美紀

3月のある日、次男も卒業式を終え、車の免許を取り頼んであった車が納車しました。その車は18才なのワンポックスカ(ファミリーカータイプ)で、息子とドライブに行こうという事になり、南宮さんに向かいました。まだまだ車幅にも慣れてないし、バックして駐車も何度かやり直し、そしてお参りをした。3月6日の人社まで時間もあるし、もつと遠くにと、2月に私の母と約束したうすずみに行こうと、息子と決め、母にさつそと電話を入れ、息子は友達を誘つて言い、4人でうすずみに行きましました。18才の子が温泉なんて、あまり嬉しくもないだ

ろつと思ひ、私は薄墨をネットで調べると、陶芸の体験工房があるのを知り、3月10日に予約をしました。10年ぐら前に、友達と土岐へ遊びに行った時、一度陶芸体験をした事があり、息子と友達小学生の時、社会見学で体験してましたが、母は人生初体験です。行く前から「何をやるのかな」「どんなふうにするの」と興味深々で行く前から一番ハイテンション。前日に「明日だよ」「何に出来るの」「おやつもたくさん持つていくから何がいい?」「飲み物は?」と、電話が入ります。子供はバス遠足のような準備をしようと思つて、母に、「私は何でもいよ」と返事をすると、母は「電話切るね。買い物に行つてくる」と、なんと一方的な電話でした。それほど楽しみにしてたん

でしよう。当日、我が家を朝七時に出発して、実家へ母を迎えに行くと、やつぱりすこい荷物。「お母さん、こんなに何を持つていくの?」と聞くと、「お菓子でしょ、パンでしょ。」「まあいつかあ出発。母は薄墨での陶芸は初めてですが、うすずみ温泉には亡き父と何度も行った事があると言つていました。だから思い出もたくさんあるのですよ。」「一時間半の道のりです。途中で道の駅で休憩をとると真つ先に車から降り、母を買つてくる母。子供がはしゃいでいるような感じでした。薄墨に着くと温泉の施設、そして宿泊の出来るホテル。そして陶芸の工房と、敷地内にあります。10時のオーブンの時間より早く着いたので、私と母は、散

歩きました。母の口から出る言葉は、父の事ばかりで、「ここだね、おまかせな。」「ここで、お父さんと...」の連発でした。そういえば二人がケンカしている姿が、見た事がない。父は、仲の良い夫婦だったんだよねと、私も父の事を思い出して、生きていた頃の父の姿が浮かんできました。そんな散歩をしてると、オーブンの時間になり、息子達が呼びに来ました。さあいいよ陶芸の体験です。先生から4人で説明を受け、粘土に触れ、ろくろを回しながらそれぞれ作りたいものを考えはじめました。息子達も、「うわー」「おー」「楽しい」「いい感じ」「いやねえ」なんて言いがら、粘土と格闘。母は「自分のお茶碗つくる」と張り切りだし、そんな会話が飛び交い、笑い

声と笑顔でいっぱい。3人を見てるのが一番嬉しくて、思い出にと、写真をたくさん撮り、工房いっぱいに広がる笑い声に満足する私でした。2時間による体験で4人は自分のお茶碗に湯のみ、ビールグラスや、お皿、大きな形も様々でみんな作品を見ながら自画自賛。色付けは色を選ぶと、付けて頂けるそう。あと2、3カ月後の焼きあがりが出て楽しみます。粘土だらけになつた手を洗い、撮つた写真を見ながら、4人で食事を楽しみました。帰りの車中で息子の友達が、「こうやって家族で出かける事がないんだ。お父さんもお母さんも仕事で忙しいし...」と、めつちや楽しかった。私は、「また誘うからおばちゃんたちでよかつたら一緒にいこう」と、葉を返すと、「えー、

本当」と嬉しそうに言つてくれました。私達もこうして出掛けるのは、ここ最近の事ですが、友達と遊びに行くのも楽しいけど、親子もこういう時間はすごく大切なんだと強く思いました。焼きあがった器が届いたら、食卓に料理とともに並べて、楽しい会話が生まれ、笑顔いっぱい。人生初の陶芸に母は大満足でした。笑い声に包まれた一日でした。

# 川風

しらしみほ

無名の戦士

わたしたちは、前日の仕事を少し早く切り上げて、レンタカーで関市総合体育館まで走りまわりました。太宰府出発が16時。その日のうちに行ける所まで行きます。夜中12時半、名神集中工事で豊中から草津まで通行止めで、第2京阪へと大きく遠回りです。菩提寺PAで、あらかじめ、後部シートを倒し、大きな座布団2枚と寝袋をひいた簡易ベッド(笑)へ移動しました。そこそこ爆睡です。あたしたちは、2人して、現場の強風で舞った砂をかぶってましたので、草津のコインシャワーをめぐっていたのですが、工事のため、草津PAが閉鎖されたのでした。目覚めたら、出発です。早く着いたので、まだ誰も居ない、風地蔵に立ち寄りまわりました。庭も店の中もいい感じになっていて、人の手が入っているのが伝わり、安心してインハイ予選会場へ。2階の高西応援席までの間に、次々たくさんの人に声を掛けられます。りおんが剣道はじめたばかりの頃の隣の道場で一緒だった、お母さん。中学の剣道部員仲間、そのお母さんまた仲間、「今着いたの?」「飛行機?」「え、車?」「りおん、奈良遠征でも、ガンバってたよ。」「ぜんぶちがう高校に進んでいる仲間たちです。」「はじめ、開会式前に到着し、正面2階席から、剣を交えた事のある岐阜県の仲間たちの顔を眺めました。試合は順調というか、準々決勝戦からは、どれも接戦で進みました。女子の団体、男子の

個人の大会ですが、悟道館の仲間たちも勝ち進んでいて、うれしかったです。さて、女子は決勝、麗澤瑞浪戦です。敵は、決勝まで5-0で勝ち進んできた県外の優秀生を集めたチームです。まず、先鋒、攻めましたが胴を抜かれて1本負け。つぎは、りおんです。ずっと中堅から3年になって、先鋒、次鋒へと先生の作戦のポジションへ移ります。打倒麗澤ですから。これまでのあらゆる場面が走馬灯のように浮かぶ中、りおんは一歩も引かず、強気の攻めを繰り返します。平らな道どころか、デコボコだらけのケモノ道を前だけを向いて走ってきたりおん。何度も、失敗をしながらも、先生にまつすくついできたりおん。ものすこい迫力です。たくましくなりました。相手も、攻めましたが、なにを!とばかりに優勢です。面の中の顔はどんな顔をしているのだろう。ぐつと相手を睨みつけてるのかな。小さい頃から、「おかせさん見とって!」「みとって!」「が口癖のりおん。」「みとるよ!おかせさん目をそらさずにしつかりみとるよ!」「いい場面が、何度もあります。旗は3本上がりません。惜しい打ちに会場じゅうがウウウとわきあがりまわります。後で気づいた事が、メールがすくく入ってました。「いま、会場じゅうが感動してます!」「捨て身のりおんちゃんかっこいいです!」「きつと会場じゅうの誰もが、高西を応援してるはずです。」「の応援メールでした。制限時間ギリギリにりおんの捨て身の面アリッ!!!割れんばかりの拍手と、歓声です。中堅もコテ!

メンをとり返されませんが、さらにメン!と勝ちが続きます。副将引き分け。あと一人。2-1です。大将がメンをとられ、引き分けで代表選へ持ち込みです。そこでメンをとられ、あと一歩のインターハイ全国への切符を手に入れる事は出来ませんでした。二位です。一位だけが得られる切符。翌日の岐阜新聞の中身は、麗澤が勝つて当然の内容に唾然。地域新聞の記者さん、岐阜県民を応援しなくてどうしますか?県内の高西の選手の間でまるで知らないじゃないですか。高山のコンビニで3部買いながら、がっかりしました。岐阜新聞の記者よりも、壮絶なドラマを知る会場じゅうにいる仲間たちが、中学の夏から剣道はじめたばかりのへったくそな「あのりおんちゃん、ここまで強くなるなんて!」「りおん!最高!」「人の3倍稽古してきた子が最後に決めてくれたね!」応援席から、外に出るまでまた、最後まで会場に残って見てくれた、中学の時の知り合いから、負けたのに勝ったよ、うな言葉を貰い続けます。みんなが口にするキーワードが「りおんの捨て身に感動した。」でした。「仕事休んでせつか来てくれたお父さんにりおんの活躍を見せて良かった。」その日の夜と翌日、たまにしか来れないので、3人で食事にかけてさせてもらった時のりおんの第一声である。お父さんも「今までの試合の中で一番かっこよかった!」と言うように、胴着姿の堂々たるりおんの立ち姿、勢いはみことなものだ。今まで、寮生たちが、親と外食できる日も、一人寮に残っていたりおん。「おかせさん!

ん!さんがチョコレートを買って来てくれたよ!」「1年生が、アイス買って来てくれた。」と、周りの人の暖かさ感謝しつつも、やはり寂しかった。まだまだ子どもりおん。この日は、2日間、自分だけ、先生の許可をとっての外出です。先生が、近くの行きつけの温泉のチケットを下さつて、お風呂にも入りました。初日は、種類の多いホテルのおいしいバイキング、二日目はハンバーグとオムライス。喜びりおんに、あれっ?と気がついた事がありました。「その歯、どうしたの?」「なに?歯?」「高校入学前に、からだのメンテナンスをすべてしました。歯医者でも、虫歯の一つもありませんが、チェックをしてもありません。」「歯並びがいいね!」「親に感謝しなさい。」「素晴らしい財産だよ。」と歯医者さんに言われたりおん。見ると、

したの歯が、ぜんぶデコボコになっています。指で触って、「ほんとかやな。」「ガタガタしてる。」「いや、ガタガタどころじゃないって。寝められるほどきれいに並んだ歯が、なんでそんなになつたの?」「お父さんは、「そら、クイシバル言いますが、そんな頑丈な歯がたった、2年でこうもガタガタになるでしょう。」「稽古、出来あがってきたから、努力もさることながら、りおんの歯を見て、ショックでした。しかし、なんも考えたらんように見える、勝気な子の内面は、「あたしだって!」の中学から始めた時の気持ちの思いのまんまだつたんだ!」「うちが、レギュラーは必ずされるわけじゃないやん!」「と、根拠のない自信を言い続けてきたりおん。その言葉通り、ずっと、1年生からレギュラーで、大きな大会では外された

事のない、なんも苦労してないと思っただ子が、レギュラーを勝ち取るために、見えない努力を積んでいた事を、歯を見て思い知るのでした。簡単に、自分の居場所がやってくる事はありません。自分をつかみとって来た。卒業したら、福岡に帰って来ます。働きます。これからも、自分が精一杯やって自分の居場所をつかみとっていつてほしいです。本当に感動しました。でも、夢は日本一だったよね。りおんの剣道人生は、今で、まる5年です。今始まったばかりです。あたしたちの元に帰ってくるりおん。また親子2人3脚で、いまは、3人6脚で日本一の夢を必ずかなえます。いまからやぞりおん。かならず日本一になる日がやってくる事を信じています。

## 東京散策

勉強の為、西武ドームで開かれている「国際バラのガーデニングショウ」を見学に。風地蔵さんでイギリス人石積職人のリックさんとイベントをさせていただいたが、リックさんの弟子の神谷さんが「大賞」を受賞。ご挨拶をしているいるとお話をした。

夜は池袋のビジネスホテルへ。そこで震度3の地震に遭遇。やっぱり怖い・・・

次の日は駅前からバスに乗り、なぜか東京大学へ。門やフェンスのデザインがかっこいい。いつか東大出身の方の庭をつくる時は、デザインを取り入れよう。もしかして、もしかすると4人の子供のうち、一人くらい突然変異して入学するかもしれない。

神楽坂を經由して、法政大学を横目に見て、靖国神社へ参拝。資料館で一時間近く過ごす。自分の中にある「近代日本史」の知識量の少なさに驚いた。

東京の街はほんとうにきれいだ。樹木が大きく緑が深い。電線がない景色はすっきりしていて美しい。どうして若い時に東京で働かなかったんだろう?と今更ながら思う。

一年に一回は「ぶらり東京」を実現させたい。

庭師 奥田良樹